



人はしてもらったことを、してあげたいと思う

新1年生の体験入学の日。保護者の方々を対象に説明会を行っている時間に、園児の皆さんには1年生が準備した体験入学を楽しんでもらいました。日直さんが司会進行し、いくつかのグループに分かれて、ものづくりの時間や本読み、お話をする時間などを通して、おおよそ1時間いっぱい、園児のみなさんとの交流を深めました。これまでも、学校見学や秋の宝物ランドの時にも小学校に来ていただき、園児の皆さんとふれ合う時間がありましたが、機会を得るごとに話し方や接し方がお兄さん・お姉さんらしくなっていく1年生たちでした。

園児の皆さんとの交流といえば、今月は6年生が家庭科の単元の地域の人たちの関わりを考える「地域のつながりプロジェクト」という学習の中で、園児の皆さんとの関わりが少ないことに課題意識を持った子どもたちの声により、保育園訪問に出かけました。年少さんから年長さんまですべての組のお子さんとも触れ合いたいという思いから2日間の日程に分けて保育園にお邪魔しました。保育園にあるボールやブロック、おもちゃなどの道具などをお借りして自由遊びを行ったり、事前に自分たちで計画していたフルーツバスケットを行ったりしました。はじめは緊張する様子も見られたようですが、交流を通し緊張もほぐれ、楽しみながらふれあう時間となりました。授業の中での発想を計画に移したため急なお願いになってしまったにも関わらず快く受け入れを承諾頂いた保育園の皆様には感謝申し上げます。

異学年交流といえば、体育館をのぞくと2年生たちが4つのグループに分かれ、長テーブルに手作りのおもちゃを並べ、なにやら練習していました。おもちゃは生活科の時間に、身の回りにあるものを利用して作ったものです。担任の先生に尋ねると、完成を受け『みんなで楽しく遊ぶ』というまとめの時間があるのですが、子どもたちの声でお客として1年生を招待することにしたのだそうです。『なかしゅん こどもまつり』と名付け、おもちゃ屋さんスタイルにし、おもちゃで楽しんでもらうイベントです。嬉々として準備をする2年生たち。お客を装った先生方を相手にシミュレーションをしたり、自分たちどうしもお客になってお互いのブースを回ったり。とっても楽しそうな表情にあふれていました。

発表会などで全校が交流する場面はたくさんあります。また、授業や休み時間などの中で、直接やりとりする「遊び」や「会話」などの異学年どうしのふれ合いが見られます。この異学年交流がもたらす教育的な効果は大きいと感じます。高学年の子どもは下の学年のことを考え丁寧に接し、分かりやすく伝えようとするを通し相手意識が芽生えたり、経験を重ねた自身の成長の足跡を振り返ったりする機会になるかと思えます。低学年の子どもたちにとっても楽しさや頼もしさを感じるとともに、いつかの自分の姿を上級の学年の背中に思い浮かべる事ができるかも知れません。

先にふれた1年生をおもちゃ屋さんに招待することを計画している2年生。その理由は、自分たちが1年生の時に今の3年生にそうしてもらったからなのだそうです。そんなこともあったかなと、昨年のブログを確認したら、おもちゃパーティーに今の2年生を招待した3年生のことを紹介した記事があり、その最後は次の文章で締めくくられていました。

1年生のお礼の挨拶では、代表の1年生から「楽しかったこと」と、新しく1年生が入学してきたら自分たちも「楽しませてあげられるようにしたい」との感想を交えたお礼の言葉がありました。

誰かにしてもらったことを直接返すことができないことは、ままあります。そんなとき、自分たちもほかの誰かにしてあげることのできる人になろうと感じられる気持ちは素晴らしいと思います。恩送りという大げさかも知れませんが、そんな気持ちを涵養していけたらいいなと考えます。

6年生を送る会の準備も始まり、校舎のあちらこちらを飾るデコレーション。とぶように日々が過ぎていく季節です。地面に元の色が広がってきたと思ったら、一面を真白に戻す春雪に土の中で虫たちももぞもぞしているかも知れませんか。春まであと一息。どうぞお体にご留意いただければと存じます。